

分類項目	取組主体	取組項目	取組方向	診療報酬	[DO]	[CHECK]	[ACT]		
					取組結果 (7年度第3期(1~3月)まとめ)	評価結果	7年度の取組結果を受けての今後の活動方針		
1	A-1-(1)	診療部事務局(総務課)	医師の負担軽減対策	医師確保	・救急の専門医確保を目指す。 ・救命救急分野に従事する若手医師を育成するため、シニア確保を目指す。	有	・1月から大学からの3ヶ月交代でのシニア医師が赴任し終了し、救急科配置医師は2名体制に戻った	×	・招聘医師数は維持する ・大学への働きかけを継続し、公募も継続する ・救命士活用を検討すると併に診療看護師を募集する
2	A-1-(6)	診療部事務局(総務課)	医師の負担軽減対策	医師時間外管理	・毎月開催される診療部科長会議で状況を共有し、各部長のマネジメントに役立てる。 ・時間外勤務の縮減が進まない診療科においては、院長、副院長等と対策を検討	-	・追加的健康確保措置に伴う面談を継続実施している ・毎月、診療部科長会において時間外等の状況を報告し、共有化をはかっている ・医師の時間外減少傾向は継続している	△	・9年度からは診療科を限定したB水準維持を目指す ・診療科と情報共有を続け、全体的な時間外縮減と月時間外100時間以上者の削減に注力する
3	A-2-(2) B-2-(2)	薬剤部	医師と他職種との役割分担	薬剤部取組	・病棟に薬剤師を完全配置し、入院患者の服薬指導、持参薬管理等を行い医師、看護師の負担軽減に寄与する。	有	・3月末時点での病棟薬剤師配置数は10名です ・全病棟において薬剤師による持参薬入力を実施しており、服薬指導も積極的に進めている	△	・昨年4月から病棟薬剤加算を算定を開始したので、その維持に注力する ・服薬指導の件数は平均で月約560件であり、今後は更なる件数の増加を図っていく
5	A-2-(8) B-2-(7)	事務局(医事経営課)	医師と他職種との役割分担	医事経営課の取組	・引き続き外来の効率的な運営に必要な医師事務作業補助者(MA)の配置先、必要数を外来運営委員会等で精査し、MAの確保に努める。 ・また、採用したMAが定着し、MAとしての役割を十分努められるよう、教育研修を行う。	有	・R8.1にMA1名、外来クラーク1名を採用したことにより、複数部署業務の遂行に向け、3月からの業務習得に取りかかることができた ・循環器内科のJNDについて、新システムの導入に伴い、Dr.と担当者間での紙媒体でのやり取りをなくし、作業を効率化した ・別業務を行っていたMAの2日/週の割合での内科MA業務への従事(継続) ・ペースメーカー外来への2名の増員(継続) ・脳神経外科におけるMRI予約取得業務(週1回)を、3名のローテーションにて行っている(継続) ・心臓血管外科のクラークの配置時間を、予約患者数の多い日は外来師長からの依頼により延長している(継続)	△	・循環器内科におけるJNDのシステム本格導入に向け、担当者の操作スキルの向上を目指す ・文書作成の新人育成(指導者/指導方法)の見直しを続け、定着を図る ・複数部署業務が可能となるよう配置やシフト調整を続ける ・価格交渉を含めて、人材派遣会社への働きかけ強化 ・30:1加算以上の取得を維持する ・肝臓コーディネーターを増やす ・MA業務を行う診療科を拡充する ・診断書作成支援システムの導入を目指す ・診療支援室で効率的な外来運営検討を継続し、実現化する
8	A-2-(11)	看護部	医師と他職種との役割分担	看護部の取組	特定行為研修を終了した看護師を計画的に増やし、分野を拡大し、医師の業務軽減に寄与する。	-	・創傷管理関連、集中治療、栄養及び水分管理分野の特定行為認定看護師(3名)が院内において活動中 ・R6年度に研修が終了した1名が集中治療分野で院内で活動を開始し、委員会で行方実施が認められた ・心不全分野での1名の研修修了した ・次年度、クリティカルケア分野での研修先が決定した	△	・創傷管理での医師の代わる一部処置検査などの代行入力を継続する ・集中治療分野2名の本格的な救命救急センターでの活動を継続、拡大する ・更なる分野の拡大を検討する
9	A-2-(6)	臨床工学室	医師と他職種との役割分担	臨床工学室の取組	手術室、内視鏡室に臨床工学技士を常駐(専従)させ、これまで医師及び看護師が行ってきた業務を担う。	-	(手術室) ・毎日2名が常駐(1名は専従) ・搬入96件/準備460件/点検630件/立会364件/トラブル対応21件/スコープオペレーター業務 0件 (内視鏡) ・消化器内視鏡技師 取得(1名) ・対応50件(ESD, ERCP等)・・・時間外対応内6件・スコープ洗浄450本	△	・スコープオペレーター業務等を増加させる ・対応時間帯の拡大(夜間・休日対応) ・内視鏡洗浄業務の拡大 (本数の全体比率 2024年度 約30% → 2025年度 47%)
10	A-2-(4)	中央検査部	医師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	NICU設置のA-EEGの検査についてルーチン帯の検査、検査結果の電子カルテ取り込み、NICU以外での機器の活用などを模索し業務負担軽減に繋げる	-	・検査対象となる症例がないため実験的な状況の中、電子カルテへの取り込みができるようにする事は費用対効果に見合わず現時点では断念する。	-	・要望があれば対応できる体制が整ったので、進捗管理は終了とする
11	a-2-(4)	中央検査部	医師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	血液型の亜型や不規則抗体陽性者への患者説明に同席し、業務を補助する	-	準備は整っているが需要が無い状況である	-	・要望があれば対応できる体制が整ったので、進捗管理は終了とする
12	A-2-(3)	中央放射線部	医師と他職種との役割分担	中央放射線部の取組	法令改正により技師が造影剤の着脱を含めた取扱いが可能となったため、救外を除く午前中の造影CT及び頭部CT-A検査の造影剤着脱を技師が行なうことで、医師の業務負担軽減に繋げる	-	・1月 14件 ・2月 8件 ・3月 19件	○	・条件下において概ね施行できており、業務を継続する ・条件の緩和を検討する
13	B-2-(3)	中央放射線部	看護師と他職種との役割分担	中央放射線部の取組	3T MRIの造影剤着脱は看護師にお願いしていたが法令改正により技師が行えるようになったため、未梢確保されている事例に限り技師のみで造影検査を完結させる	-	・1月 32件 ・2月 32件 ・3月 45件	○	・条件下において全例施行できており、業務を継続する ・1.5Tにおいても概ね施行できている ・更なる拡大に向けて検討する
14	B-2-(4)	中央検査部	看護師と他職種との役割分担	中央検査部の取組	各病棟の心電図及び各病棟、救急外来の心電図Ns.のポータブル対応(患者の移動による看護師の負担軽減と医師への正確な心電図の提供)	-	・1月 96件,日中ポータブル16件 ・2月 66件,日中ポータブル10件 ・3月 54件,日中ポータブル2件	○	・ポータブルの件数は増加している ・病棟のクラークに地道な声かけを継続したことで、検査済みの患者さんが生理検査室に来たり、行き違いになったりということは減少した ・ポータブル対応が定着したと考え終了とする
新規	B-2-(4)	中央検査部	看護師と多職種との役割分担	中央検査部の取組	手術室の採血管の管理を検体検査室で行い期限切れ保管不備等の改善に努め看護師の負担軽減に繋げる。	-			・今後体制を整え業務に着手していく